

地域と医療をつなぐコミュニケーションマガジン

かがやき

K A G A Y A K I



医療法人 漢榮会
福岡輝栄会病院 広報誌

〒813-0044 福岡市東区千早5-11-5

TEL: 092-681-3115

<http://www.kieikai.ne.jp/>

TAKE FREE

2014年 特集号



日本医療機能評価機構
認定病院

特集

エビデンスに基づいた 標準的治療の実践



福岡輝栄会病院 副院長・脳卒中センター長 鈴木 聰 医師

エビデンスに基づいた標準的治療の実践

地域における脳卒中センターとしての機能と役割を推進する福岡輝栄会病院。此度、その福岡輝栄会病院に副院長・脳卒中センター長として就任し、日々、進化を続ける脳神経外科の標準的治療を実践するために必要な医療環境の整備に取り組む鈴木医師。本紙では脳神経外科鈴木医師を特集しました。

— 今日はお忙しいところ有難うございます。さて、今日は鈴木先生が標榜される当院脳神経外科の今後の展開についてお話しいただきたく思います、その前に、あらためて鈴木先生のプロフィールをご紹介ください。 —

鈴木医師 私は昭和60年に九州大学医学部を卒業しました。以来、脳神経外科の臨床に従事するとともに九州大学大学院薬理学教室で故栗山熙教授と当時講師でいらっしゃいました現名古屋市立大学薬理学教室の伊藤猛雄教授の下で血管内皮細胞と血管平滑筋の基礎研究を行いました。その後、2年間、米国ヴァージニア大学脳神経外科でくも膜下出血後脳血管攣縮の世界的権威でもあられますカッセル教授の下で脳血管攣縮の基礎的研究を行ないました。そして、36歳の時に久留米市の新古賀病院脳神経外科の立ち上げに新任部長として参画させていただき、それ以後、今日まで脳神経外科の臨床に携わって参りました。

— 脳動静脈奇形や脳腫瘍治療における非侵襲的治療として極めて効果の高いガンマナイフ治療の経験が深く、幾多の症例数をお持ちと伺っておりますが・・・ —

鈴木医師 当院に赴任する前の9年間は製鉄記念八幡病院で脳卒中・神経センター長を担当していました。血行再建術を中心とする多くの脳血管障害の治療を行って参りました。また、15年以上にわたってガンマナイフ治療に従事し2000症例以上の治療を行いました。現在、日本ガンマナイフ研究会と日本定位放射線治療学会の世話を勤めさせていただいています。

— 脳神経外科領域のみならず、脊椎脊髄外科疾患についても積極的な診察と治療やOPEをされていらっしゃいますね・・・ —

鈴木医師 実は平成7年にオーストリアのブラーツ市にありますカールフランツェンス大学脳神経外科のペンドル教授の下で、短期留学でしたが腰椎椎間板ヘルニアなどの脊椎・脊髄疾患のトレーニングを受けました。その際に腰椎椎間板ヘルニアに対するレーザー椎間板焼灼術の創始者であられるアッシャー教授から幸運にも直接レーザー椎間板焼灼術の手ほどきを受ける機会を得ました。

また、手根管症候群や肘部での尺骨神経圧迫に対する減圧術なども見学させていただく機会に恵まれましたが、これらはいずれも脳神経外科医が行っています。日常的に脳神経外科はしばしば「脳外科」と略されますが、英語で言う Neurosurgery には「脳外科」と訳すのが妥当なんですね。従いまして、福岡輝栄会病院脳神経外科は脳から末梢神経まで広い領域をカバーして地域医療に貢献できる脳神経外科でありたいと考えています。

一 先生が標榜される福岡輝栄会病院の脳神経外科が目指すところについてお聞かせいただけますか。――

鈴木医師 福岡輝栄会病院の脳神経外科は、旧中村病院時代の昭和 57 年に、当時、脳卒中治療のメッカで



あった秋田県立脳血管研究センター脳神経外科の伊藤善太郎先生にご指導を頂戴して開設されたと伺っています。それ以来、脳神経外科はまさに中村病院、福岡輝栄会病院の主力エンジンとして病院を引っ張って来られたものと理解しています。

私は今年の 4 月 1 日に当院に赴任して以来、福岡輝栄会病院脳神経外科のリニューアルに取り組んでいる

当院は「オリンパス手術用顕微鏡 OME-9000」が導入されています ～手術を低侵襲、かつ安全に施行するための必須器材のご紹介～

脳神経外科分野において、顕微鏡を覗きながら直径 1mm にも満たない細い血管同士を縫い合わせたり、微細な組織にメスを入れたりする手術（マイクロサージェリー）が必要不可欠です。手術環境の最適化により、より低侵襲で患者様に安心していただける手術へつながっていきます。

脳室鏡



脳神経外科用の内視鏡で硬性鏡と軟性鏡がある（ハイビジョン対応）

手術用顕微鏡



ICG による蛍光血管撮影とポルフィリンによる腫瘍蛍光撮影が可能

エンドアーム



内視鏡を固定できるエンドアーム
(ハイビジョン対応)

ところです。赴任後に最も重視しましたのは、「エビデンスに基づいた標準的治療の実践」と言うことです。エビデンスに基づいた治療を実践するためには国内外の学会や学術誌を通して日々、知識を取り入れること

が必要と考えます。

また、現在の進化した脳神経外科に於いて標準的治療を行うためには最新の設備と、そして何と言っても人材が必要なんです。そこで、まずこのためにいくつ



日経メディカル オンライン



学会ダイジェスト：国際脳卒中学会

2010年2月24日～26日 San Antonio, U.S.A.

2010.3.2

クモ膜下出血患者の予後をシロスタゾールが改善

一般に抗血小板薬は血栓形成を抑制するだけでなく、出血を促進する恐れがあることから出血性疾患の治療には使用されないが、シロスタゾールには血小板凝集を抑制するとともに、血管を拡張させたり血管内皮機能を改善する作用があるとされ、それらが統合して血管を保護する方向に働くと推定されている。このようなシロスタゾールの特性に注目し、クモ膜下出血患者の予後に及ぼす影響を検討した成績が、2月24日から26日まで米サンantonioで開催された国際脳卒中学会 (ISC2010) で報告された。



かの新しい医療機器を導入しました。ICGによる蛍光血管撮影とポルフィリンによる腫瘍蛍光撮影が可能である手術用顕微鏡を購入しました。また、脳神経外科用の内視鏡で硬性鏡と軟性鏡があるハイビジョン対応の脳室鏡、それに内視鏡を固定できるこれもハイビジョン対応のエンドアームを装備しました。これらはいずれも手術を低侵襲、かつ安全に施行するための必須器材であります。この他にも顕微鏡下で使用するマイクロ剪刀等も最新式の器材を揃えました。大きな成果が期待できると思います。

一方、人材と言う点でも、現在、当院には5名の脳神経外科専門医が常勤で勤務しておりますが、ほかにも九州大学病院脳神経外科同門を中心とする多くの先生方に非常勤医師としてサポートしていただいております。中でも、うだ脳神経外科クリニックの卯田健先生には脳血管内治療医としてたいへん貴重なご指導をいただいておりますし、更に製鉄記念八幡病院脳卒中センター長であります藤本茂先生のご指導で経食道心

エコー検査を行える体制を整えることができました。たいへん有り難く思っております。

— 病院全体の取り組みとして病棟の一部再編にも着手されたとのことですが。 —

鈴木医師 そうですね。10月1日よりハイケアユニット (HCU) 7床を開設しました。看護配置が7：1の一般病床に対して4：1となり重症患者さんに対する行き届いた濃厚なケアが可能になったものと思っています。

— ところで福岡輝栄会病院は救急病院でもありますか、脳卒中についての取り組みについてお聞かせください。 —

鈴木医師 脳神経外科領域の救急搬入件数は当院全体の救急件数の4割強を占め、更に搬入される脳神経外

科疾患の2割強が脳卒中の急性期患者さんです。脳卒中治療は時間との闘いですので、医療体制の整備に注力することが必要です。

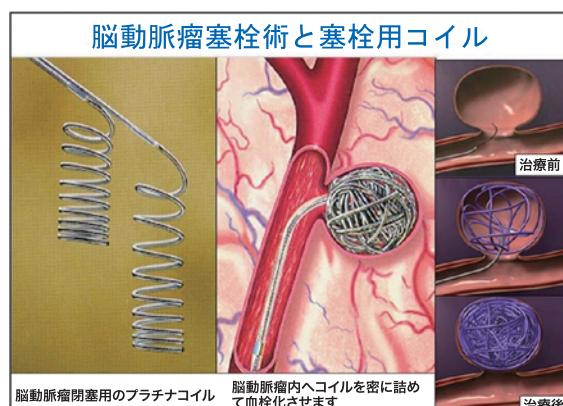
近年、脳卒中の治療においては血管内治療の重要性がますます高まっています。脳動脈瘤コイル塞栓術や頸動脈ステント留置術は既に確立された治療法として広く施行されています。これらに加え、アルテプラーゼ静注療法が無効であった閉塞性脳血管障害急性期に対する治療手段として、ステント型血栓回収デバイスが薬価収載され臨床の場で使用可能となっております。当院では2名の血管内治療専門医が常勤医として日常診療に従事しており、ステント血栓回収デバイスをいつでも使用することが可能です。地域の脳卒中患者さんを救うためにもクリニックの先生方は勿論のこと、救急隊の皆さんとの一層の連携強化を切に願っている次第です。

— 最後に、わが国は著しい高齢化社会が進捗しています。福岡輝栄会病院として、又、鈴木先生ご自身の今後の取り組みについてお聞かせください。 —

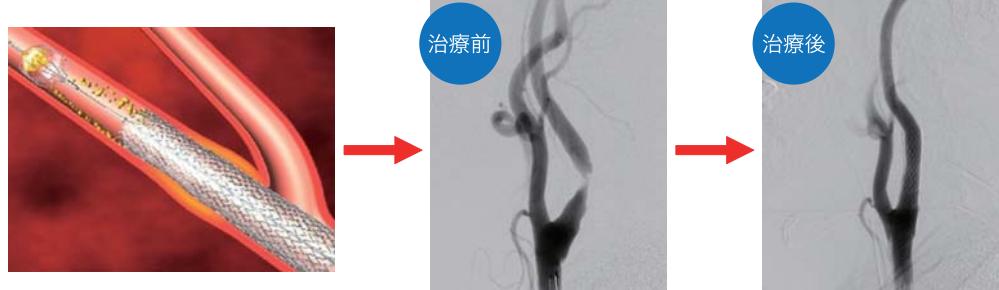
鈴木医師 そうですね。わが国の脳神経外科医が諸外国と異なるところは内科的治療からリハビリーションまで、脳神経外科医がカバーする領域が非常に広い点が挙げられると思います。当院では抗血栓療法においても抗血小板薬、ワーファリン、そして新規抗凝固薬の特徴もしっかり考慮した上で最も適切と思われる薬剤による脳卒中予防を試みていますし、また脳卒中後の痙攣に対するボツリヌス毒素療法にも積極的に取り組んでおります。

脳動脈コイル塞栓術

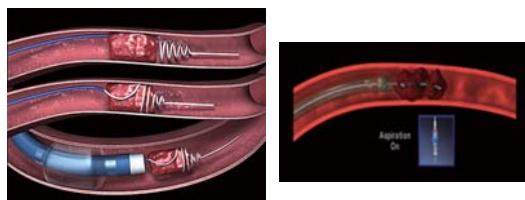
足や手の血管からカテーテルを挿入、金属製コイルで詰める



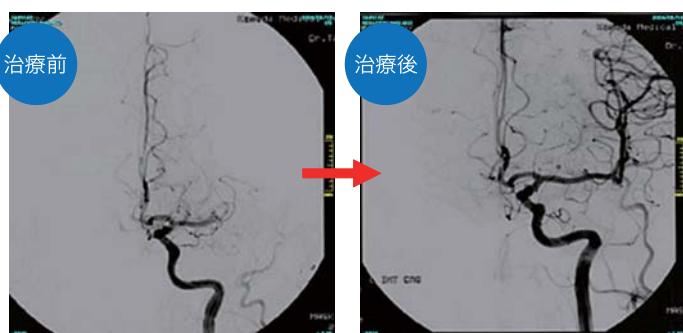
頸動脈ステント留置術



血栓回収治療デバイス



メロシーリトリーバーシステム（左）と
ペナンプラシステム（右）による血栓回収術



福岡輝栄会病院はケアミックス型の特性からも回復期リハビリテーション病棟や医療療養病棟、輝栄会グループとして運営されているサービス付高齢者向け住宅も備え、単体企業グループとして地域における包括的なケアに取組んでいます。このほど当院の地域医療連携室室長という責任も兼務しましたので、福岡輝栄会病院、しいては医療法人輝栄会グループの特性をフルに発揮して、これまで以上に地域の先生方との結びつきを強めて行けたらと願っています。先生方にはご指導ご鞭撻を頂戴し、同じ地域医療の一員として、弛まず精進して参りたいと思っていますので、どうか宜しくお願い致します。

— ところで今日のお話の領域とは離れますぐ、学生時代、鈴木先生はサッカーにいそしまれたと伺っておりますが、実はご子息は東京ヴェルディのミッドフィルダーをされていらっしゃるそうで、試合を見にいかれるなんてことはおありになるんですか？—

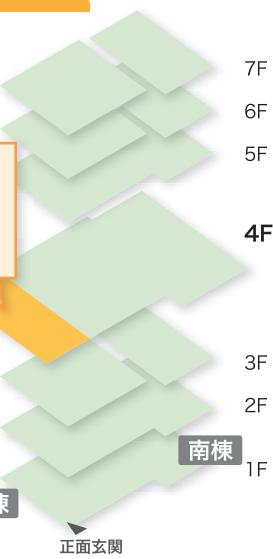
鈴木医師 そうですねえ。なかなか行けませんが、実は先日、国立競技場で息子の試合があったので、全くなとんぼ返りでしたが両親を連れて応援に行ってきました。残念ながら試合には負けましたけど、本当に久しぶりでしたが、お陰様で楽しい時間を過ごさせていただきました。(微笑)

HCU(ハイケアユニット) 開設のご案内

当院は救急病院とし侵襲的治療も多数行われていることから、平成 26 年 10 月 1 日をもって、より高度、且つ緊急救度の高い医療と安全安楽で質の高い看護提供を目的に HCU (ハイケアユニット)を開設しました。対象となる疾患は意識障害、又は昏睡・急性期呼吸不全、又は慢性呼吸不全の急性増悪・急性心不全(心筋梗塞を含む)・急性薬物中毒、ショック、重篤な代謝障害(肝不全、腎不全、重症糖尿病等)・広範囲熱傷・大手術後・救急蘇生後・その他の外傷、破傷風等で重篤な状態の疾患となります。HCU 認可病床数は 7 床、看護基準は 4 : 1 となります。



北4階病棟
●ハイケアユニット
(HCU) 7床
●手術室



地域医療連携室ご案内

地域に密着し、皆様に満足していただける医療を支援します。



地域医療連携室では以下の業務を行っています。

- 他の医療機関からの紹介患者様の受け入れ
- 当院の患者様を他の医療機関へ紹介する窓口
- 医療ソーシャルワーカーによる医療相談(退院、転院、医療費など)
- 在宅医療に関する相談
- その他お問い合わせ、見学のご案内等

入院・外来受診相談直通窓口

福岡輝栄会病院 代表電話

092-681-3115 又は

地域医療連携室直通電話(FAX 共)

050-3040-7655

[受付時間] 月曜日～土曜日 9:00～18:00



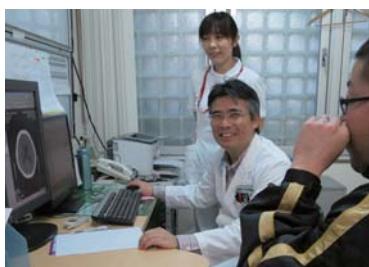
鈴木 聰 医師 (すずきさとし) 本籍地:静岡県

昭和35年(1960)7月10日 埼玉県にて出生
 昭和54年(1979) 3月 鳥取県立米子東高等学校卒業
 昭和60年(1985) 3月 九州大学医学部医学科卒業
 平成 4 年(1992) 3月 九州大学大学院医学系研究科外科系専攻(薬理学教室 栗山熙教授)修了
 平成 4 年(1992) 12月 米国ヴァージニア大学交換研究員(脳神経外科 カッセル教授)
 平成 6 年(1994) 10月 九州大学医学部附属病院文部教官助手(脳神経外科)
 平成 7 年(1995) 7月 オーストリア カールフランツェンス大学(脳神経外科 ペンドル教授)
 平成 9 年(1997) 7月 天神会新古賀病院脳神経外科部長兼脳神経センター長
 平成17年(2005) 4月 新日鐵八幡記念病院脳神経外科部長
 平成17年(2005)10月 新日鐵八幡記念病院(製鉄記念八幡病院)脳卒中・神経センター長兼任
 平成26年(2014) 4月 現職 現在に至る

所属学会等

日本脳神経外科学会 (代議員:平成 20-22 年、平成 24-25 年、学術評議員:平成 4 年~)
 日本脳卒中学会 (評議員:平成 16 年~、代議員:平成 25 年-26 年)
 日本定位放射線治療学会 (世話人:平成 22 年~)
 日本ガンマナイフ研究会 (世話人:平成 24 年~)
 American Heart Association (Fellow, Stroke Council:平成 6 年~、Professional Premium Gold Member)
 American Association of Neurological Surgeons (International Associate Member)
 Congress of Neurological Surgeons (Vista member)
 European Association of Neurosurgical society (International Member)
 Leksell Gamma Knife Society
 International Stereotactic Radiosurgery Society
 日本脳卒中の外科学会
 日本脳神経CI 学会
 日本脳神経外科学会九州地方会 (代議員:平成 20-22 年、平成 24-25 年)
 日本脳神経外科コングレス
 日本乳癌学会
 日本放射線腫瘍学会
 日本臨床脳神経外科学会

鈴木医師の外来診療日程



- 月曜日／ 9:00 ~ 12:30
- 木曜日／ 9:00 ~ 12:30 14:00 ~ 17:30
- 土曜日／ 上記時間帯となりますが、非常勤医師との輪番となっておりますので、あらかじめお電話でのご確認をお勧めいたします。

お問い合わせ先

福岡輝栄会病院 外来医事 092-681-3115

または、地域医療連携室(直通) 050-3040-7655



- 西鉄バス 香椎参道バス停下車 徒歩0分
御幸町バス停下車 徒歩約2分
 - 西鉄電車 西鉄貝塚線 香椎宮前駅下車 徒歩約1分
 - 地下鉄 地下鉄貝塚駅(箱崎線)  徒歩 西鉄貝塚線乗り換え
香椎宮前駅下車 徒歩約1分
 - J R 鹿児島本線 香椎駅下車 徒歩約7分
鹿児島本線 千早駅下車 徒歩約8分



医療法人輝栄会 福岡輝栄会病院

〒813-0044 福岡市東区千早5丁目11番5号

TEL 092-681-3115(代表) FAX 092-681-3972

地域医療連携室直通電話（FAX 共）050-3040-7655